

「学校を核とした地域連携による学校づくり」

下関市立山の田小学校

1 はじめに

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症による影響で、様々な活動が制限された1年間であったが、そのような状況の中でも新たな方向性を模索し、いくつかは実際の活動につなげることができた。

2 活動の様子

① 環境整備

地域の有志で結成された「山の田小を愛する会」を中心に、年度当初4回の環境整備作業を計画していたが、行事の延期などの影響で、年3回の活動（予定を含む）となった。その中で、花壇や藤棚の整備、溝の土上げ、木々の剪定、除草作業などを行うことができた。活動自体は土・日曜日に行ったが、12月に行った「感謝の会」で、会の代表者が活動の内容や思いについて、全校児童に説明をした。

② 地域ボランティアによる学校支援

例年通り、高学年のミシンの学習の際に地域の方に個別指導をしていただいたり、持久走大会の安全管理に協力していただいたりした。また、月2回、地域の方が花を用意してくださり、校舎内の様々な場所に飾っていただいた。年度途中からは、児童が花を意識できるように学級の花瓶を決め、児童が花瓶を地域の方まで持って行き、生けてもらった花瓶を取りに行くようにした。



さらに、初めての試みとして、冬休みに勉強会を開いた。下関市立大学の学生と中学校の生徒に声をかけ、指導者として協力していただいた。年齢の近いお兄さん・お姉さんに教えてもらい、児童のモチベーションも高まっていた。

③ まちづくり協議会の活動への協力

・エコキャップの回収

昨年度に引き続き、4年生が中心となって全校児童にエコキャップの回収を呼びかけた。9月と12月に回収を行い、昨年度を上回る量のキャップを回収し、社会福祉協議会に手渡した。夏休み前から全校放送やポスターで呼びかけたことが回収量の増加につながった。

・ペットボトルタワーの製作

山の田地区では、昨年度からまちづくり協議会が、冬季に3号公園をライトアップしている。その光源の1つとして、ペットボトルタワーの製作を協議会から提案され、3年生が取り組んだ。最後の組み立てや点灯式など、学校外の地域の活動にも児童が参加した。



④ 地域の素材を生かした授業づくり



下関市歴史探究倶楽部の大濱博之会長を学校に迎え、6年生が平和教育の一環として、太平洋戦争中の下関市でどのようなことがあったのかを、当時の写真を見せていただきながら話を聞いた。児童にとっては初めて聞く話が多く、興味津々で聞いていた。

また、キャリア教育の1つとして、地域の職業人の話を少人数で聞く学習を2月に計画していたが、感染症の増加により延期となっている。

3 成果と課題

今年度、さまざまな制限のある中で、地域人材を使った冬休みの学習会や授業づくり、ペットボトルタワーの製作など新しいことに取り組むことができたことはとてもよかった。しかしながら、たとえば地域の素材を生かした授業づくりでは、行事的な学習にとどまっており、日常の学習の中に地域素材を取り入れるところまで至っていない。そこを追求するには、地域ならではの学習に取り組もうとする教師の構えが必要であり、教員の地域理解を深めなければならない。また、コロナ以前に行っていた地域の方との昼休みの昔遊びや、地域の有志による読み聞かせの再開も来年度の課題としたい。